

No.	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
	藤吉校区はエリアが広いため、西鉄柳川駅の西と東で校区を分けて欲しい。東側は(仮称)柳城小が近い。	再編にあたり、既存の校区を組み合わせ、かつ旧市町の範囲を超える組み合わせを行わないとした理由としては、小学校区と地域コミュニティの結び付きが非常に強いためである。現在でも、公民館連絡協議会や区長会など多くの地域組織が旧市町のまとまりで動いている背景がある。確かに、藤吉校区は広く、柳河校区、城内校区と隣接し、江曲は東宮永校区にも近いが、現校区を分割することは地域コミュニティが崩れ、よろしくないと考えている。また、無条件での学校選択制についても、同様の理由で、現在のところ考えていない。現行通り、教育的配慮等の条件に合えば認める予定である。
1	新しく柳川市に転入してくる子育て世代に向けて、柳川市で子どもを育てたいと思うようなまちづくりを考えているのか？	<p>(学校教育課長)まちづくりに関しては、他の校区で「まず人口を増やす取り組みを行うべき」という意見が出た。しかし、全国で人口が減っている中、まずは市外に出て行く人を引き止めなければならない。現状は、中学校に希望する部活がなかったり、複式学級になる学級があるような状況である。このような中、教育委員会としてできることは、今回の学校再編により、保護者が子どもを通わせたいと思うような学校を作ることである。学校規模を大きくすることで、一定の教職員集団を確保し、指導能力を上げると共に、設備投資も集中させ、教育効果を着実に上げていきたい。再編により、教育環境の整った魅力ある学校を作ることが、まちづくりへの貢献であると考えている。</p> <p>(首席指導官)教職員体制について補足。学年に20人の子どもを先生1人で見る場合と80人の子どもを先生4人で見る場合とでは、比率は同じだが、職員が増えることで、いろんな視点から、多様性を持って子どもたちへ対応できるようになる。また、教職員集団の中で切磋琢磨して高めあい、教師の指導力が上がることも期待できる。</p>
	駅の東西で校区を分けてしまうとコミュニティが崩れるという話だったが、コミュニティが崩壊しても近い学校に行かせるのか、それともコミュニティを維持するために遠い学校に行かせるのかは保護者が考え、選択させて欲しい。学校がなくなれば寂れてしまう地域もあると思われるため、柳川市全体のまちづくりと学校再編は切り離さずに考えるべきである。	学校は地域にとって大切なインフラであると思うが、一番重要な役割は子どもたちにとって良い学校であることである。地域に学校がありさえすれば良いのではなく、この学校に通わせたいと思うような学校を作ることが必要だと考えている。その学校をどこに置くのか、ひいては人口をどこに誘導するのかというまちづくりの課題に繋がるかもしれないが、今回は既存の施設をできるだけ活用する案を策定している。もちろん現段階では案であるため、今後行うパブリックコメント等でご意見を示して頂ければと思う。 <p>また、自由に学校を選択できるとなれば、児童数の推計等様々な情報の把握が難しくなるため、やはり校区で固めておきたいという本音もある。住んでいる場所によってどの学校が良いということにならないよう、全ての学校の力を一律に引き上げていきたい。旧三橋町地区については、スケジュール的に再編まで時間があるため、地域の小学校を魅力あるものにするためにも、ぜひ意見を聞かせていただきたい。</p>

No.	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
2	(現小学生より)市内の学校には、それぞれの学校のよさがある。閉校してしまえば、その特色や伝統がなくなってしまうので、再編しないがよいのではないか？	<p>(学校教育課長)皆様に母校があり、当然母校に対する誇り、愛着をお持ちだと思ふ。それぞれの学校のよさがあることはよく分かる。しかし、現在、1クラスが10人以下の学校がある状況で、教育委員会としては、いろんな体験ができて、たくさんの友だちがいる学校が子どもたちにとって良いと思っている。今の学校のいいところを、新しい学校につないでいくことが大事なことである。引き継げるところは引き継ぎ、新しいものを作っていく。子どもたちにとって負担かもしれないが、同時に大きなやりがいがあることである。それができるように、できるだけのケアを行うつもりである。</p> <p>(首席指導官)藤吉小を愛する気持ちが伝わってきた。この愛校心を、新しい学校をつくる、伝統をつくっていく情熱として、希望を持って取り組んでもらいたい。</p>
3	藤吉小の「よつば学級」は今後どこに置くか決まっているのか？	当然引き継ぐことは決まっているが、どこに置くかは未定である。再編計画を策定する段階でどこに置くのがベストか、施設との兼ね合いを考えながら、切れ目無く継続していきたい。
4	蒲池地区は他の校区と統合しないようだが、今後も学校規模が維持できる見通しがあるのか？ 今までないので、義務教育学校のイメージが付きにくいのが、市内で教育に差がでないように欲しい。	蒲池地区に関しては、計画案の内容で再編すれば、しばらくは2クラスが維持できる推計である。他の校区との組み合わせも検討したが、蒲池校区に隣接する校区は旧三橋町地区の矢ヶ部校区と、わずかな境界で接する昭代校区であり、通学の観点からも他の校区との組み合わせが難しい。そのため、小学校同士、中学校同士を合併して、横に広げるのではなく、小学校と中学校が合併することで、縦に広げ9年制にすることで学級数を確保する考えである。これにより、一定規模の教職員集団を確保でき、他の校区と同様に教育環境の充実を図ることができる。加えて、蒲池、昭代校区においては小中学校の校舎が隣接しており、義務教育学校を作るのに適した条件があった。 義務教育学校と通常の小中学校、どちらが良いとならないよう教育体制を構築していく。
5	保護者向け説明会や地域住民向けの説明会で出た意見はどのようにまとめられるのか？それぞれ出た意見が、校区ごとに一本化されるのか？	意見のまとめ方についてだが、今後、校区ごとの保護者向け、地域住民向けの説明会が終了した後、パブリックコメントを行う。説明会やパブリックコメントで出た意見を集約、検討した後に、計画案に反映できる意見は反映し、計画を策定する。また、説明会での意見は市公式サイトに順次掲載している。学校再編は、組み合わせの問題でもあるため、単独の校区の意見だけでは反映できない部分もあるが、同じ校区で同じ意見が多く出た場合、例えば藤吉小学校は再編の必要は無いという意見が強く出た場合は、校区としての強い要望も尊重しながら検討する必要があると考えている。意見集約後に、組み合わせやスケジュールが変わる可能性は否定できないが、全てを白紙にすることは考えていない。
	藤吉小に関しては単独で残し、6年後、10年後に検討でも良いのではないか？	(仮称)三橋小の再編は、スケジュールでは一番最後に位置しているため、現藤吉小の様子を見ながら再編を進めていくという形にはなる。ただ、藤吉小以外の旧三橋町地区の小学校は、1学年1学級という小規模校であるため、教育環境の充実のためには再編が必要だと考えている。

No.	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
5 つづき	柳川市の学校再編については、報道を見て初めて知った。まず、公式サイトや市報などで、市民へ周知すべきではないか？	このたびの周知の順番に関しては、大変申し訳無く思っている。当初は、検討委員会が終了した後、約1年間かけて再編計画(案)を策定し、まず議会の所管委員会で報告、議会全員協議会で説明した後に、市報に掲載し、皆さまにお知らせするという流れを考えていた。しかし、そろそろ再編計画案の説明があるだろうと思われたのか、公開で開催された、議会の所管委員会にマスコミの取材が入り、そのまま所管委員会の内容が報道されたという経緯である。結果的に今回のような周知の形になった点についてお詫び申し上げます。
	藤吉小以外の旧三橋町地区の小学校の学年別の人数や学級数を教えて欲しい。	6年後の推計。1年生から6年生まで順に、矢ヶ部小(22人、23人、27人、21人、17人、18人、全て1クラス)、ニッ河小(25人、18人、18人、23人、23人、26人、全て1クラス)、垂見小(15人、12人、14人、19人、15人、28人、全て1クラス)、中山小(5人、6人、4人、10人、5人、11人、複式学級になる基準に該当)